Kindergarten Building of Wooden

自然との
ふれあいを通し
心身ともに
生きる力を
育くんで欲しい

特集

野草舎森の家

茨城県鹿嶋市

ヨシケンニュース

YOSHIKEN NEWS

2016 Nov. vol.9

木造の園舎で のびのび豊かに育つ

子どもの育つ環境として木造の園舎を見直す。ぶつかったり転んだりが日常の子どもたちにとって、一日の大半を過ごす園舎が、足や体に弾力性の高い素材（木造の床や壁）であることはとても重要なことです。

また、木材は保温性や調湿作用が高く、免疫力を高める効果や風邪などの感染率を抑える効果など、子どもたちの健康面にも優れています。

現代の子どもたちにとって、乳児期・幼児期の日々の生活の中で自然と触れ合うことは、五感を通じて豊かな感性や情緒が育まれるなど貴重な体験の場となり、そうした生活を通して刻まれた記憶は、子どもたちにとってかけがえのない大切な思い出の場所となることでしょう。

吉田 良一

緩やかにカーブを描く園舎は、どこにいても全体を見渡すことができ、人と人との自然なつながりを生み出します。木造の園舎・園庭・森の木々が一体となり、自然環境や地域社会とつながる空間をかたちづくりました

茨城県鹿嶋市
野草舎森の家

子どもたちを優しく包み込む 半円形の木造園舎

園舎と園庭を緩やかにつなげることで、明るい快適な空間が生まれました
木造の園舎は視覚的なあたたかさと心地よさ、親しみやすさなど
子どもたちの感性に大きな影響を与えてくれます

鹿島神宮へと続く古道に
生命力のあふれる森が広がる

立地と環境

北浦と鹿島灘の間にある緑豊かな鹿島台地に位置し、敷地東側の道路は、南へ1.5キロメートルほどにある東国随一の古社である鹿島神宮へと続く古道であり、太古の昔から豊かな自然環境のもとで、人々の暮らしが続いてきたそのような場所に計画された保育園です。

園舎と園庭と一体感を持たせるため、緩やかな円弧を描きながら園庭を優しく包み込む造形としてます。子どもたちが、五感を通じて自然と触れ合い、共に生きることを実感し、様々な体験や経験を重ねる中で、創造性豊かに成長していく、そのような園舎づくりを目指しました。

園長先生の思い

今から35年ほど前に、子どもの家・野草舎（保育園）を始めたときに、野草舎という名前を付けたのは、魯迅の「野草」という短編集の冒頭にある「野草はその根深からず、花と葉美しからず、しかも露を吸い、水を吸い…」という文章に感銘を受けたから。子供たち一人ひとりのありのままの姿を認め合うような思いがあった。（関沢園長共著「いのちを育てるこころを育てる」より）

保育室はガラスの引き戸で仕切られています。引き戸の開閉による室内の温熱環境の調整はもちろん、戸を空けて保育室を繋げることで、年齢の違う園児の交流が生まれ、子どもたちの社会性を養います

引き戸を開けると保育室が園庭と穏やかにつながります。子どもたちは思い思いの場所で過ごすことができます

右上：絵本コーナーは静かに本を読んだり、時にはジャングルジムのように遊び場にも　**左上**：園児トイレはハイサイドライトからの採光で明るく。風通しもよく空気が淀みません　**右下**：手作りの木製タオルかけ　**左下**：手づくりの木製の椅子とテーブルはスタッキングできるようデザインされています

a：光や風を感じながら食べる給食は、森の中でのピクニックのようです　b：一時預かり室兼遊戯室。保育室との仕切りを開ければ大空間に　c：欅の木（シンボルツリー）の木陰で遊ぶ子どもたち　d：わが家のような玄関が子どもたちを迎え入れます　e：吹抜けの明るい玄関ホール。奥の職員室はR壁

ウッドデッキはもう一つの保育室。鳥のさえずりや葉を揺らす風の音、季節と共にうつろう森の色。五感で感じる自然の息吹が、子どもたちの感性を豊かにします

無垢材と珪藻土の壁の保育室。木は素肌で触ると柔らかで温かく、優しさを感じます。木の香りや視覚効果は気持ちをリラックスさせ、情緒を安定させる効果があります

五感を通じて自然とふれあい、共に生きることを実感できる

自然と共に生きる家

子どもたちが、五感を通じて自然と触れ合い共に生きることを実感し、様々な体験や経験を重ねる中で創造性豊かに成長していく、そのような園舎づくりを目指して3つのテーマを柱に設計にとり組みました。

①「木造建築の園舎」

子供の健康を第一に考えて温かみのある木造の園舎とし、可能な限り無垢材や自然素材を用いた手仕事の見える建築とし、また地産地消および本物に触れるという意味から、茨城県産の木材を積極的に活用する。

②「風土に合った建築」

自然の陽の光や風をふんだんに取り入れた、地域の気候や暮らし方など、土地の風土と調和した空間で、子供たちが生き生きと日々を過ごせるシンプルな建物とする。

③「自然との調和」

園舎・園庭が周囲の森の木々と調和した関係性を形成し、その一体的景観が子供たちの原風景として、未来に向かう心に刻まれるような場所とすること。

自然とともに生きることを学ぶ

野草舎森の家
園長　関沢 礼子

園舎に関しては木造であること、自然素材であること、省エネであること、子どもたちの健康に配慮すること、内部と外が穏やかにつながっていること、子どもたちの動と静の場所があることなどを建築の柱にしました。

木造建築を得意とする吉田建築計画事務所の吉田所長と出会えた幸運も重なり、こちらの思いにもじっくり付き合っていただきました。

吉田所長に建設地を見学していただいた折に「この地には半円の園舎が合いそうだな」と吉田所長が呟いたのを聞いて、これだと直感し、お願いできればいいなと思い、話し合いが進みました。

円形の建物ゆえに、設計も建築も慎重に進めて頂きました。完成した園舎は子どもたちをやさしく包み込み、静かに佇んでくれています。

野草舎の保育方針として「日々の生活の中での自然体験、生活体験を通して人間が自然界の一員であることを十分受け止め、自然とともに生きるということを保育の中に位置づける」としていますが、三方を自然に囲まれ、建物と園庭と空が穏やかにつながり、小鳥や小動物とふれあえる明るい快適な空間になりました。

木造園舎は視覚的なあたたかさと心地よさ、親しみやすさなど、子どもたちの感性にも大きな影響をあたえてくれる事と思います。

この園舎のよさを生かした暮らし方を子どもたちと創り出していけるよう、丁寧に過ごしたいと考えています。

野鳥を呼ぶ巣箱。鳥たちが集う庭での小さな出会い

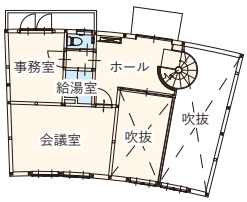
ウッドデザイン賞受賞
JAPAN WOOD DESIGN AWARD 2016

いばらき デザイン セレクション 2016

1F平面図

野草舎森の家

工事名称／野草舎森の家　新築工事
事　業　主／社会福祉法人木風会
　　茨城県 鹿嶋市山之上611-16
用途地域／未指定（市街化調整区域）
敷地面積／2,953.57㎡（893.45坪）
建築面積／905.69㎡（273.97坪）
延床面積／895.92㎡（271.02坪）
構造・用途／木造2階建て・保育所
竣　　工／2016年 3月



2F平面図

心と体をすこやかに育む
子どもにやさしい木の園舎
㈲吉田建築計画事務所　一級建築士事務所
本社　〒315-0001 茨城県石岡市石岡 1-1-8
つくば事務所　〒305-004 茨城県つくば市千現 2-1-6

0120-922-416
吉田建築計画事務所
是非、ホームページをご覧下さい　mail:info@iezukuri.co.jp

吉田建築計画事務所
所長 吉田 良一
一級建築士